

社会総がかりで取り組む教育の推進

～令和5年度 地域ぐるみで育むえひめっ子未来創造事業 実践事例集～



愛媛県教育委員会

は じ め に

現在、社会を取り巻く様々な問題や課題がある中、令和5年6月に閣議決定された国の教育振興基本計画でも示されたように、地域住民等の参画により地域と学校が連携・協働する地域学校協働活動や、保護者や地域住民等が学校運営に当事者として参画するコミュニティ・スクールを一体的に推進するとともに、地域の多様な人材を活用した家庭教育支援チームの活動を推進することが求められています。

県におきましても、愛媛県教育振興に関する大綱の振興方針の一つに、「社会総がかりで取り組む教育の推進」を掲げ、地域の幅広い方々の参画を得て、子どもの学習・体験活動、家庭教育等の支援を通じ、郷土愛の醸成や保護者の子育てを支え、地域で子どもを育てることができるよう、その中核的な事業として、「地域ぐるみで育むえひめっ子未来創造事業」（令和4年度までは「学校・家庭・地域連携推進事業」）を実施し、各市町事業への補助に加え、研修事業や普及啓発等に取り組んでおります。そうした中、本年度の各活動別研修会や愛顔でつなぐ“学校・家庭・地域”の集い、教育サポート企業フェスタにおいて、多くの方々に御参加いただきました。おかげさまで、関係者の意識及び資質向上を図る一助になったものと考えております。また、各市町教育委員会及び事業関係者の皆様の御努力のもと、学校と地域、家庭、行政等が連携・協働し、子どもたちの学びを保障するための取組や、安全・安心な居場所づくり、保護者への相談体制の確保等、各地域で子どもたちの成長を支えていただいたことにつきて、心から感謝を申し上げる次第です。

本事例集は、各市町教育委員会及び事業関係者の皆様の御協力により、県内各地での地域学校協働活動等の実践を取りまとめたものです。事業関係者をはじめ、関係各位に御高覧いただき、「地域とともにある学校づくり」の一層の推進、そして、「学校を核とした地域づくり」に対する地域住民の主体的な意識高揚を図る取組にお役立ていただけますと幸いです。

結びに、本冊子の作成に当たり、格別の御指導・御協力をいただきました愛媛県地域と学校の連携・協働体制構築推進協議会の委員の皆様をはじめ、各市町教育委員会、関係機関の皆様方に心よりお礼申し上げます。

令和6年3月

愛媛県教育委員会事務局社会教育課長

長 田 和 也

はじめに

I 事業概要及び県事業

1 事業の全体像	4
2 愛媛県地域と学校の連携・協働体制構築推進協議会	8
3 活動別研修事業	9
4 普及啓発事業	21
5 教育サポート企業活用促進事業	26

II 市町補助事業

令和5年度実施市町一覧	30
-------------	----

【地域学校協働活動】

① 四国中央市	32
② 新居浜市	33
③ 西条市	34
④ 東温市	35
⑤ 砥部町	36
⑥ 久万高原町	37
⑦ 大洲市	38
⑧ 内子町	39
⑨ 伊方町	40
⑩ 宇和島市	41
⑪ 鬼北町	42

【えひめ未来塾】

① 西条市	44
② 東温市	45
③ 大洲市	46
④ 内子町	47
⑤ 西予市	48
⑥ 宇和島市	49

【放課後子ども教室】

① 四国中央市	52
② 新居浜市	53
③ 西条市	54
④ 今治市	55
⑤ 東温市	56
⑥ 伊予市	57
⑦ 久万高原町	58
⑧ 大洲市	59
⑨ 内子町	60
⑩ 西予市	61
⑪ 宇和島市	62
⑫ 鬼北町	63
⑬ 愛南町	64

【土曜教育活動】

① 新居浜市	66
② 西条市	67
③ 上島町	68
④ 東温市	69
⑤ 伊方町	70
⑥ 西予市	71
⑦ 愛南町	72

【家庭教育支援】

① 西条市	74
② 今治市	75
③ 上島町	76
④ 伊予市	77
⑤ 砥部町	78
⑥ 久万高原町	79
⑦ 大洲市	80
⑧ 西予市	81
⑨ 宇和島市	82

(参考) 放課後児童クラブ一覧	84
えひめ学校・地域教育サポーター一覧	88
えひめ家庭教育サポート企業一覧	89

Ⅰ 事業概要及び県事業

1	事業の全体像
---	--------

1 趣旨

地域の教育力の低下や、学校が抱える課題に複雑化・困難化といった社会的課題の解決を目指し、全ての子どもを健全に育成するためには、学校・家庭・地域が連携・協働して教育に取り組む体制づくりを一層強化する必要がある。

そこで、各地域と学校が、子どもの健全育成について目標やビジョンを共有することによって、地域住民等の参画による「地域学校協働活動」「えひめ未来塾」「放課後子ども教室」「土曜教育活動」「家庭教育支援」の効果的な取組を総合的に実施するとともに、県においても、保護者・教職員・地域住民及び企業関係者等が連携・協働して子どもたちを支える教育環境を整備するため、研修や普及啓発活動等に取り組む。

2 事業の概要

(1) 県事業

ア 「地域と学校の連携・協働体制構築推進協議会」の設置

- 主な役割 事業の在り方・成果等の検証・評価、地域と学校の連携・協働体制構築の検討 等
- 人数 10 名（学識経験者、福祉関係者、学校教育関係者、社会教育関係者等）
- 開催回数 3 回

イ 活動別研修事業

- 目的 各事業それぞれの関係者の資質向上、情報交換等を図る。
- 開催研修会
 - ・ 地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的な取組推進研修会
 - ・ 放課後子ども教室・えひめ未来塾指導者研修会
 - ・ 新・放課後子ども総合プラン指導者研修会
 - ・ 家庭教育支援研修会（兼「早寝早起き朝ごはん」フォーラム in えひめ 2023）
- 内容 講義、事例研究、ワークショップ 等

ウ 普及啓発事業

(ア) 「愛顔でつなぐ“学校・家庭・地域”の集い」（兼 合同研修会）

- 目的 県内の幼稚園から高等学校までの保護者・教師・地域住民・福祉関係者・警察関係者・企業等の子どもたちに関わる大人が一堂に会して、研修や情報交換を行い、社会総がかりで子どもたちを育むための方向性を探る。
- 開催回数 1 回（松山市）
- 内容 講演、分科会 等

(イ) 事例集の作成・配布

- 実施市町の優れた取組事例の紹介
- 市町教育委員会、事業関係者等に配布及びホームページで公開

(ウ) CSアドバイザーの派遣

- 目的 地域学校協働活動とコミュニティ・スクール（CS）の一体的な取組推進を図るため、CSの設置を進めようとしている市町等に対し、CSアドバイザーを派遣し、説明会や研修会を実施する。
- 派遣回数 6 回

(I) えひめ家庭教育応援学習プログラムのリニューアル

- 目的 えひめ家庭教育応援学習プログラムを社会状況や保護者のニーズの変化等に合わせてリニューアルし、活用の促進を図ることで子育て家庭を社会全体で支援する体制の構築を目指す。
- ポイント
 - ・ アンケート調査等からニーズの高い17プログラムを厳選
 - ・ 社会状況の変化に応じたエピソードや関連資料の刷新
 - ・ 容易に活用できるように一目でわかる展開案を追加

エ 教育サポート企業活用促進事業

- 目的 企業等の活用促進による教育活動の充実と教員の負担軽減を図る。
- 開催研修会
 - ・ 教育サポート企業フェスタ
- 内容 出前模擬授業体験やパネル展示による企業等の取組紹介 等

(2) 市町補助事業

各市町に、運営委員会を設置し、地域学校協働活動推進員やコーディネーター等の配置、活動内容・運営方法の検討、支援活動の実施を行う。

ア 活動内容・運営方法の検討

各地域の実情に応じた取組内容や事業の運営方法の検討等を行う。

イ 人材の配置

- 統括的な地域学校協働活動推進員及び統括コーディネーター等
各地域学校協働活動推進員等間の連絡調整や、助言・指導、人材発掘・確保等の統括的な役割を担う。
- 地域学校協働活動推進員及び地域コーディネーター
地域学校協働活動の連携についての各種調整のほか、学校や学校関係者、地域の団体等との連絡調整、地域の協力者の確保・登録・配置、地域の実情に応じた定期的・継続的かつ多様な活動プログラムの企画等を行う。
- 学習支援員
特別な知識、経験等を活用し、協働活動支援員では行うことのできない小・中・高校生等への学習支援を実施する。
- 協働活動支援員
学校の教育活動の支援や放課後、土曜日等における学習支援・体験・交流活動等のプログラムを中心的に実施する。
- 家庭教育支援員
家庭教育に関する学習プログラム等の中心的な企画・実施や保護者への相談対応等を行う。
- 協働活動サポーター
放課後、土曜日等を含むプログラムの実施のサポートや子どもたちの安全を管理する。
- 特別支援・共生社会サポーター
特別な支援を必要とする子どもたちに対する放課後等の学習支援・体験活動を行う場合、地域の実情に応じて、特別な配慮を必要とする子どもたちの活動をサポートする。

ウ 活動の実施

(7) 地域学校協働活動

地域住民が学校と連携・協働し、教育活動を支援するとともに、地域住民の自己実現を図り、地域を活性化する。

○ 主な活動内容

郷土学習、学びによるまちづくり、体験・ボランティア活動支援、部活動指導、学校環境整備、登下校の見守り、補導時の対応 など

(イ) えひめ未来塾

全ての子どもを対象に地域の参画を得て、子どもが主体的に学習に取り組むことのできる場（環境）を設けるとともに、子どもの悩みや相談に応じて学習を支援する。

○ 主な活動内容

放課後等の学習機会の提供と支援、学習習慣の育成、学習支援や悩み等への対応、学力強化シートの活用、教員OBの活用 など

(ウ) 放課後子ども教室

全ての子どもを対象に、安全・安心な子どもの居場所を設け、学習や体験活動等を提供する。

○ 主な活動内容

学習支援や文化、スポーツ自然体験活動支援、異年齢集団や地域の方との交流活動、児童クラブと一体・連携した取組 など

※ 放課後児童クラブと連携して「新・放課後子ども総合プラン」として実施

(エ) 土曜教育活動

全ての子どもを対象に、企業等の人材を活用した特色・魅力のある教育プログラムを提供する。

○ 主な活動内容

プロや専門家の教育支援や継続的なプログラムの提供 など

(オ) 家庭教育支援

保護者等への学習機会や情報の提供、相談体制の構築等を行い、家庭教育支援の基盤を整備する。

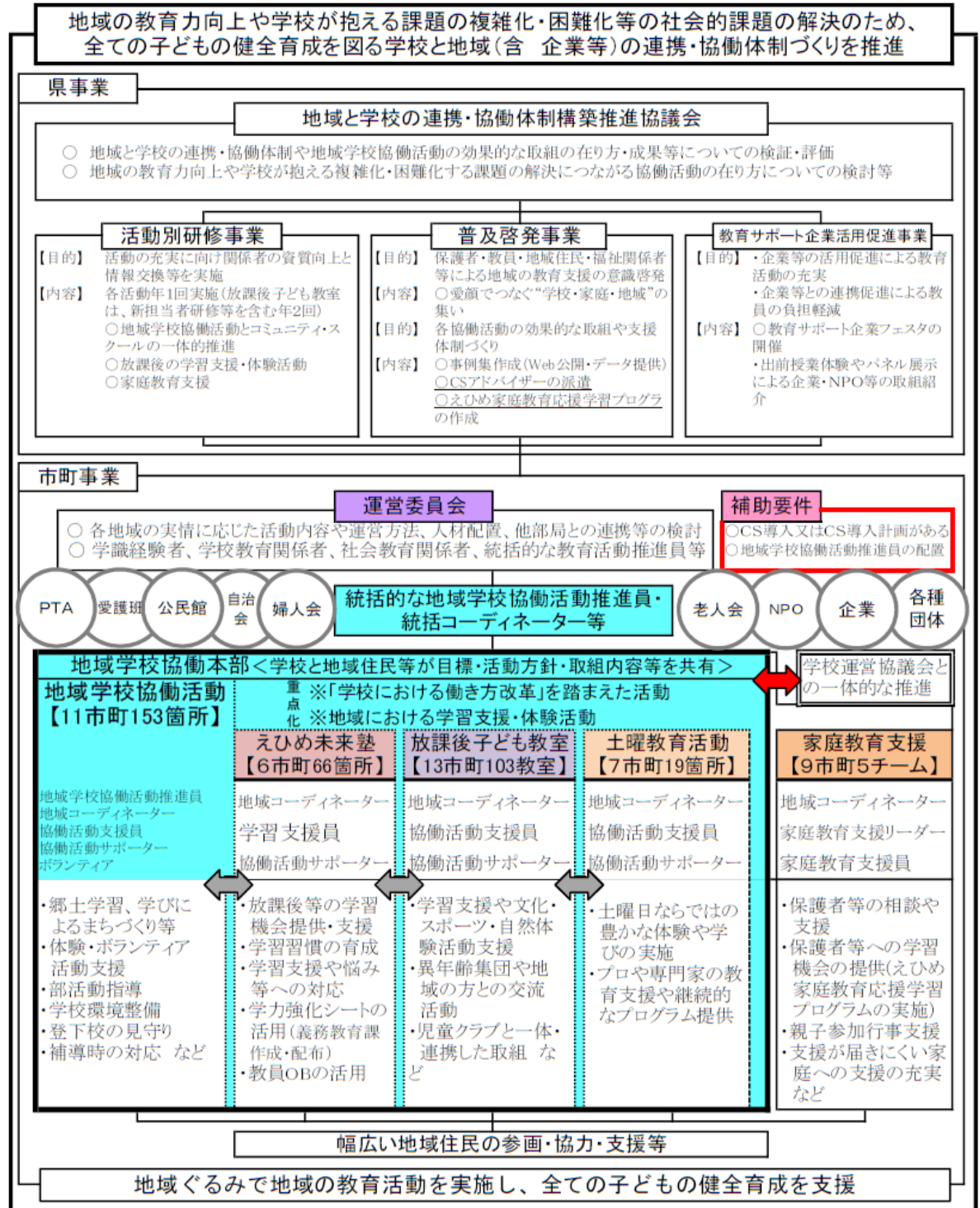
○ 主な活動内容

家庭教育支援チームによる保護者等への相談や支援、保護者等への学習機会の提供(えひめ家庭教育応援学習プログラムの実施)、親子参加行事支援、支援が届きにくい家庭への支援の充実 など

令和5年度地域ぐるみで育むえひめっ子未来創造事業構造

地域の教育力の低下や、学校が抱える課題に複雑化・困難化といった社会的課題の解決を目指し、全ての子どもを健全に育成するためには、学校・家庭・地域が連携・協働して教育に取り組む体制づくりを一層強化する必要がある。

そこで、各地域と学校が、子どもの健全育成について目標やビジョンを共有することによって、地域住民等の参画による「地域学校協働活動」「えひめ未来塾」「放課後子ども教室」「土曜教育活動」「家庭教育支援」の効果的な取組を総合的に実施するとともに、県においても、保護者・教職員・地域住民及び企業関係者等が連携・協働して子どもたちを支える教育環境を整備するため、研修や普及啓発活動等に取り組む。



※実施市町及び箇所数(R6.3末見込み)

2	地域と学校の連携・協働体制構築推進協議会
---	----------------------

1 概要

(1) 目的

地域ぐるみで育むえひめっ子未来創造事業を、円滑かつ効果的に実施するとともに、地域の教育支援に関する施策の在り方や成果等について検証・評価等を行う。

(2) 委員構成

学識経験者、PTA団体関係者、教員等団体関係者、児童福祉関係者 等

(3) 業務

- 地域学校協働活動及びえひめ未来塾、土曜教育活動、家庭教育支援の在り方・成果についての検証・評価
- 「新・放課後子ども総合プラン」の実施方針、安全管理及び広報活動方策の策定
- 地域と学校の連携・協働体制構築の検討に関すること 等

2 令和5年度委員名簿

役職名	氏名	職名
会 長	中尾 茂樹	愛媛大学教職大学院特定教授
副会長	神野 文	愛媛県PTA連合会副会長
委 員	山田 誠	愛媛大学教育学部准教授
	川崎美代子	愛媛県連合婦人会副会長
	山内 孔	愛媛県小中学校長会副会長
	樋口 志保	愛媛県学童保育連絡協議会会長
	緒方 義彦	愛媛県市町教育委員会連合会会長
	岩本 透	愛媛県経済同友会総務企画委員長
	福本 政代	大洲市教育委員会地域コーディネーター
	酒井 あい	公募委員

3 会議の主な内容

回数・実施日	会場	主な協議内容
第1回 R 5. 6. 27 (火)	県立図書館	○事業の概要及び現状、家庭教育支援 ○事例紹介（酒井委員から東温市での取組）
第2回 R 5. 10. 24 (火)	県立図書館	○えひめ家庭教育応援学習プログラム改訂 ○その他の事業の状況
第3回 R 6. 3. 7 (木)	にぎたつ 会館	○令和5年度事業実施状況報告 ○令和6年度事業実施予定説明

3	活動別研修事業
---	---------

1 目的

「地域学校協働活動」「えひめ未来塾」「放課後子ども教室」「土曜教育活動」「家庭教育支援」に係るスタッフ及び市町教育委員会・学校等の関係者に対し、事例研究や講演等を通して研修を実施し、事業の趣旨・内容について理解を深めるとともに、効果的な取組の在り方について研究を行い、各地域の実践に生かす。

2 研修一覧

研修会名 「研修会テーマ」	実施日 会 場	参加 人数	主な研修内容
放課後子ども教室・えひめ未来塾 指導者研修会 「地域ぐるみで育もう！子どもたちの豊かな学びと体験を！！」	R5.6.1 (木) 松前総合文化センター	79 名	○事業説明 ○講演 「話すって楽しい！子どもの心を開かせる聴き方」 MCS認定マザーズティーチャー兼トレーナー/FM愛媛アナウンサー 高橋 真実子 氏 ○講演・実技講習 【学習支援部会】 「子どもの安心感を高める働き掛け～どの子ども居心地の良い場所をつくるために～」 愛媛県総合教育センター 教育相談室 指導主事 矢野 泰慎 氏 【体験活動部会】 「アートカードで遊びながら美術鑑賞」 愛媛県美術館 専門学芸員 田代 亜矢子 氏
「地域学校協働活動」と「コミュニティ・スクール」の一体的な取組推進研修会 「地域と学校の協働で育む子どもたちと地域の未来づくり～先進事例から学ぶ地域と学校の連携・協働の在り方～」	R5.7.27 (木) エスポワール愛媛 文教会館	134 名	○事業説明 ○事例発表 広島県府中市立国府小学校 学校運営協議会副会長 木下 善雅 氏 教諭 宗友 菜摘 氏 宇和島市立津島中学校 学校運営協議会委員長 田中 繁幸 氏 校長 近藤 浩一 氏 教頭 玉井 克司 氏 地域学校協働活動推進員 田村 祐美代 氏 ○グループワーク ○助言 愛媛県CSアドバイザー 一般社団法人コミスクえひめ 副代表理事 遠藤 敏朗 氏

家庭教育支援研修会（兼「早寝早起き朝ごはん」フォーラム in えひめ 2023） 「地域まるごと『えひめっ子応援隊！』～早寝早起き朝ごはんを輝くえひめっ子の未来～」	R5.10.4 （水） エスポワール愛媛 文教会館 一部オン デマンド 配信	130 名	○アトラクション「読み聞かせコンサート」 えひめ紙芝居おはなし会 前代表 まるやまやすこ 氏 食文化・料理研究家/作曲家 中村 和憲 氏 ○講演 「現代の子どもたちのための朝食～朝食欠食率の課題、現代における朝食作りのコツ、朝食を美味しく食べるための助走～」 管理栄養士/栄養教諭 松丸 奨 氏 ○シンポジウム 事例発表 川下中学校区家庭教育支援チーム「チームほっとちゃん」 げんきアップ！おうえんたい（西条市栄養教員部会） コメンテーター 愛媛県医師会理事/愛媛県学童保育連絡協議会 会長 樋口 志保 氏 松丸 奨 氏 コーディネーター 中村 和憲 氏 ○ワークショップ（情報交換）
新・放課後子ども総合プラン指導者研修会	R5.12.10 （日） にぎたつ 会館	83 名	○行政説明 ○講演 「支援者のためのストレス管理と子どもに寄り添うコミュニケーション術」 おやこコーチングmamanoria 代表 川手 美香 氏 ○事例発表 放課後子ども教室「ボンデン広場」（新居浜市） 清水児童クラブ（松山市） ○グループワーク等

3 研修の概要

放課後子ども教室・えひめ未来塾指導者研修会

(1) テーマ

地域ぐるみで育もう！子どもたちの豊かな学びと体験を！！

(2) 概要

- 日 時 令和5年6月1日（木）9：25～12：20
- 場 所 松前総合文化センター
- 参加者 79 名

放課後子ども教室及びえひめ未来塾の指導者、子どもの体験活動や学習支援に携わる方、「地域ぐるみで育むえひめっ子未来創造事業」関係スタッフ、地域教育プロデューサー、地域教育協力隊、市町教育委員会関係職員、市町担当者、各教育事務所担当者 等

(3) 内容

①講演

演題 「話すって楽しい！子どもの心を開かせる聴き方」

講師 MCS認定マザーズティーチャー兼
トレーナー/FM愛媛アナウンサー

高橋 真実子 氏



講演では、講師の高橋氏に、コロナ禍におけるオンラインコミュニケーションルーム「たいわ室」での子どもたちとの対話の経験を踏まえた聴き方のポイントについて御講演いただいた。

相手に興味をもって聴くことでコミュニケーションが広がること、また、人の話を聴くことは、相手の不安を取り除き、安心感を生み出すことなどを御教示いただき、参加者は自分自身の話の聴き方を振り返ることができた。参加者アンケートでの肯定的評価は、99%であった。

参考になったこと・感想・意見

- 子どもと接する時に大切な「相手に興味をもつこと」を学んだ。また、ペアで話し合うことで情報共有し、新しい気づきを得ることができた。
- 最近、ひきこもりの悲しい事件があった。だから、余計に孤独から救うことのできる「聴く」ことの大切さを痛感し、心に響いた。
- 心を込めて聴くことは、子どもの心を救うことにつながることを学んだ。

②講話・実技講習等

【学習支援部会】（講話・ワークショップ）

演題 「子どもの安心感を高める働き掛け～どの子ども居心地の良い場所をつくるために～」

講師 愛媛県総合教育センター

教育相談室 指導主事 矢野 泰慎 氏

学習支援部会では、講師の矢野氏にワークショップを交えながら子どもと大人の信頼関係を築くための働き掛けや集団における子ども同士の人間関係づくりの手法等を教えていただいた。リフレーミングや心理技法を使った具体的な働き掛けや様々なグループアプローチのエクササイズを通して、参加者は体験的に子どもの安心感を高める方法について学ぶことができた。参加者アンケートの肯定的評価は、100%であった。



参考になったこと・感想・意見

- 子どもたちへの接し方が参考になった。自分が褒められることがあまりないので、うれしい気持ちになった。
- SGE等、人とのコミュニケーションをとりやすくしたり、人間関係を良好にしたりするツールが学べてよかった。
- ワークショップでのエクササイズは、子どもの本音を聴き出すことができるので、自己紹介の際にぜひ使ってみたい。

【体験活動部会】（実技講習）

演題 「アートカードで遊びながら美術鑑賞」

講師 愛媛県美術館 専門学芸員

田代 亜矢子 氏

体験活動部会では、講師の田代氏に愛媛県美術館所蔵作品より作成したアートカードを使った遊び方について実技講習いただいた。アートカード

とは、楽しく遊びながら鑑賞力を身に付けることのできる学習教材で、カードを使ったゲームを通して、作品の細部を観察する力や感じたことを言葉で表現する力を育成することができる。グループごとに作品の鑑賞をしながら楽しく遊ぶ体験を通して、参加者からは「すぐに活用してみたい」という感想が数多く寄せられた。参加者アンケートの肯定的評価は、100%であった。



参考になったこと・感想・意見

- 大人でも楽しめて、グッと人との距離が縮まった。子どもたちなら、もっと楽しめるのではないかな。
- 人によって感じ方や見方が違うので、大変おもしろかった。それがこの短時間で感じることができたことがすばらしい。
- 放課後子ども教室に限らず、公民館活動にも利用できそうだ。
- 自分で感じる、感じたことを相手に伝えるよい機会になった。

(4) まとめ・今後に向けて

「アフターコロナの今、子どもたちにたくさん体験をさせたい！」という声が、放課後子ども教室及びえひめ未来塾の指導者やスタッフから多く寄せられていたことから、今年度の研修会テーマを「地域ぐるみで育もう！子どもたちの豊かな学びと体験を！！」とし、主に子どもの居場所づくりや体験活動に視点を当てて実施した。

講演では、傾聴や対話をキーワードに、「相手に興味をもって聴くこと」「不安を取り除き、安心感を与えるコミュニケーションの図り方」について、新たな気付きを得るとともに、子どもとの接し方について振り返る機会となった。学習支援部会と体験活動部会について、参加者アンケートの肯定的評価は、100%であった。

今後は、各市町の活動の実態把握に努め、事例発表等も取り入れた研修内容を検討するなど、より効果のある研修会につなげるとともに、放課後子ども教室及びえひめ未来塾の拡充を図っていきたい。

「地域学校協働活動」と「コミュニティ・スクール」の一体的な取組推進研修会

(1) テーマ

地域と学校の協働で育む子どもたちと地域の未来づくり～先進事例から学ぶ
地域と学校の連携・協働の在り方～

(2) 概要

- 日 時 令和5年7月27日（木）10：15～15：00

○ 会 場 エスポワール愛媛文教会館

○ 参加者 134 名

地域ぐるみで育むえひめっ子未来創造事業関係者（地域コーディネーター等）、教職員（特に事業実施地域の先生方）、市町教育委員会職員、社会教育関係団体関係者、地域教育プロデューサー、地域教育協力隊、本事業に関心のある者等

(3) 事例発表

①県外事例発表「広島県府中市立国府小学校」

発表者：学校運営協議会副会長

教諭 木下 善雅 氏
宗友 菜摘 氏



広島県府中市立国府小学校の学校運営協議会副会長の木下氏と宗友教諭に「地域と学校の協働で育む子どもたちと地域の未来づくり」と題し、コミュニティ・スクールとして6年目を迎える同校の取組について発表していただいた。

同校では、「地域を愛し、たくましく生き抜く子どもの育成」を目指し、地域資源や人材を生かした学習を各学年の教育課程に位置付け、学校・家庭・地域が連携・協働し、地域ぐるみで子どもを育てる体制を整えている。この体制の核となっているのが、学校運営協議会委員、各学級のPTA役員、教員及び地域住民が所属する4つの部会（国府演JOY祭など学区あげてのイベントに取り組む「イベント部会」、学習体験・寺子屋などの学習の支援に取り組む「まなび部会」、あいさつの推進・安全活動等、豊かな心の醸成や安全安心な生活習慣づくりなどに取り組む「こころ部会」、食育・体育活動・清掃活動等、学校生活の土台づくりに取り組む「元気部会」）である。今年度からは、子どもたちの意見を取り入れた活動を行うために、委員会活動の一つとして「こどもCS委員会」を立ち上げ、子どもたちが部会に参加している。各部会において、「知り合う・分かり合う・つながり合う」をキャッチフレーズに、学校・家庭・地域が対話を重ね、企画立案及び運営に関わることは、学校と地域が情報を共有する機会の増加や保護者・地域による学習支援の活発化等につながっていることを御教示いただいた。

参考になったこと・感想・意見

- 地域として、児童に何かをやってあげるというのではなく、一緒に作り上げていく体制が素晴らしいと思った。
- 教育課程にきちんと組み込まれていて、本校でもこれから進めていかなければならない。担当の先生が、意欲的に熱意をもって関わっておられたのが印象的だった。
- 地域コーディネーターとして、学校内に相談できる教員がいるということはとても心強い。
- 地域との協働活動が素晴らしい。カリキュラム・マネジメント、国府演JOY祭等、持続可能なまちづくりにつながっている。

②県内事例発表「宇和島市立津島中学校」

発表者 学校運営協議会委員長 田中 繁幸 氏
校長 近藤 浩一 氏
教頭 玉井 克司 氏
地域学校協働活動推進員

田村 祐美代 氏



県内事例発表として、宇和島市立津島中学校学校運営協議会委員長の田中氏、津島中学校の近藤校長、玉井教頭及び地域学校協働活動推進員の田村氏に「『地域学校協働活動』と『コミュニティ・スクール』の一体的な取組」と題し、地域と協働した学校づくりを目指す同校の取組について発表していただいた。

平成31年4月に設置された同校の学校運営協議会は、保護者・PTA関係者、公民館関係者及び商工会・企業関係者等、多様な立場や属性の委員で構成されており、学校や地域に関する様々なテーマについて、生徒を交えた熟議を行っている。協議会で話し合われたことは、職員会、生徒会、PTA理事会、地域学校協働本部及び公民館や商工会等で情報共有され、各組織が連携・協働し、具現化されてきたことを紹介していただいた。

これまで、「つしま夏祭り舞踊大行進」や地域の公民館祭りへの参加、スマイルボランティア（地域での挨拶活動）、スマイルフラワー（美化委員会で育てた花を地域の施設に贈呈）及びシトラスリボン活動等、よりよい学校・地域をつくるために子どもたちが様々な活動の企画・運営に関わっており、郷土愛の醸成、自己肯定感の向上につながっていることを話していただいた。

参考になったこと・感想・意見

- 熟議がとても興味深かった。自らが考え行動していくことは得るものが多いと感じた。
- 管理職が変わっても学校運営協議会が機能すれば、チーム学校は継承されることが実感できた。
- 地域の活動に中学生の生徒たちが熟議を重ねることは、文化継承の担い手育成にもなり、郷土愛を育む活動として、これからの地域づくりへとつながるよい取組だと思う。
- 中学生という、思春期の難しい年代の子どもたちに、地域貢献という役割を持たせることで、自己有用感が高まり、それがふるさとを愛する言動力になっている。地域活性化にもつながる、効果の高い取組だと思った。

③グループワーク

指導助言：愛媛県CSアドバイザー

一般社団法人コミスクえひめ 副代表理事 遠藤 敏朗 氏

グループワークでは、参加者が「祭りに関する取組」「防災に関する取組」「キャリア教育（職場体験）に関する取組」の3つのテーマについて、地域と学校が連携・協働して実践している（したい）ことについて意見交流を行った。

様々な立場から学校・家庭・地域の連携の在り方について情報交換したり、課題解決に向けて助言し合ったりする時間を設定することで、今後の活動の見通しをもつだけではなく、相談し合えるつながりを構築する上で、参加者にとって有意義な時間となった。



指導助言の遠藤氏からは、学校・家庭・地域の連携・協働体制を構築するためのポイントとして、「熟議による目標やビジョンの共有」、「地域学校協働活動推進員（地域コーディネーターを含む）の設置と地域学校協働本部の整備・充実」、「学校における地域連携・協働担当主任の設置」を挙げていただき、持続可能な体制づくりや「地域学校協働活動」と「コミュニティ・スクール」の一体的な取組の推進の必要性について御教示いただいた。

参考になったこと・感想・意見

- 他市の地域学校協働活動推進員や教職員の方と話ができ、それぞれの立場の問題点が分かり、今後の活動の推進の仕方が見えてきた。
- 様々な立場から地域の未来、地域の子どもの育ちを考えることはとても有意義である。参加し、たくさんの気づきをいただいたので、職務に生かしていきたい。
- 参加者と具体的な悩みを共有することができた。また、今後も相談し合えるつながりができた。
- 遠藤先生の助言が子ども・学校・地域のつながりの大切さを考える上で大変参考になった。

(4) まとめ・今後に向けて

地域ぐるみで育むえひめっ子未来創造事業担当者を始め、学校関係者、PTA等の社会教育団体関係者等の134名の方に参加いただいた。

今回、2年ぶりに参集形式で開催することができ、事例発表やグループワーク等を通して、各学校及び地域で実践していることや課題等を情報交換することができた。参加者からは学校・家庭・地域が連携・協働して活動する上で大切なポイントを知ることができたという感想を多くいただくとともに、参加者アンケートの肯定的評価は、100%であった。参加者の関心とニーズに合った内容の研修会が開催できたことがうかがえる。

愛媛県内のコミュニティ・スクールや地域学校協働本部は年々増加しており、「地域学校協働活動」と「コミュニティ・スクール」の一体的な取組の推進が求められている。今回の研修会の成果と課題を踏まえ、次年度はさらに参加者の学びと実践につながる研修会を目指して、今後も地域ぐるみで育むえひめっ子未来創造事業の拡充を図っていきたい。

研修会についての意見、要望等

- 各学校・地域にお任せではなく、チーム愛媛として、実践事例や研修等でつながり、みんなで盛り上げる必要がある。

- 地域学校協働活動、コミュニティ・スクールという、どうしても学校が主体という感覚になってしまうが、「地域」の関わり度を強くしていくことが重要だと思った。
- 教職員や地域の方に対し、取組に関する啓発活動を今以上にしていく必要がある。
- 成功事例だけではなく、失敗事例や課題なども聞きたい。また、限られた予算の中で、他市町がどのように活動を広げているのか情報交換したい。
- 活動や取組に関する事例や困ったことに対する参考になる情報を何かプラットフォームのような所に集めて情報共有できればよいと思う。

家庭教育支援研修会（兼 「早寝早起き朝ごはん」フォーラム in えひめ 2023）

（1）テーマ

地域まるごと「えひめっ子応援隊！」～早寝早起き朝ごはんで輝くえひめっ子の未来～

（2）研修の概要

- 日 時 令和5年10月4日（水） 10:00～16:30
- 場 所 エスポワール愛媛文教会館（大ホール）
- 参加者 130名

家庭教育支援チーム関係者、地域ぐるみで育むえひめっ子未来創造事業関係者、市町教育委員会職員、教職員、社会教育関係団体関係者等

（3）研修内容

①講演

演題 「現代の子どもたちのための朝食～朝食欠食率の課題、現代における朝食作りのコツ、朝食を美味しく食べるための助走～」

講師 管理栄養士/栄養教諭 松丸 奨 氏

学校栄養士の松丸 奨氏を講師に招き、「現代の子どもたちのための朝食」と題し、朝食欠食率の課題や現代における朝食作りのコツ、さらには、朝食を美味しく食べるための助走についての講演を行った。現代の多様なライフスタイルを踏まえた朝食の在り方や「食」にまつわる様々なエピソード等、子どもの健やかな生活習慣づくりのための示唆に富んだ話は、どれも実践的で参加者にとって興味深いものばかりであった。特に、「おススメ朝食レシピ」と題して、紹介していただいた朝食作りのアイデアは必見であった。また、「日々の朝食が子どもたちの健康、成長、未来、夢のためになる」との応援メッセージに、参加者全員が子どもたちへの思いを新たにした。参加者アンケートの肯定的評価は、100%であった。



参考になったこと・感想・意見

- 朝食レシピや動画、児童心理学など幅広く新しい知識を得ることができた。栄養教諭として、子どもたちのためにできることを改めて考え、実践していきたい。

- 手早くできる朝食作り。何より見た目が大切なのがよく分かった。これはダメと決めないで、時代に合った朝食を保護者に伝えていきたい。
- 理想だけでなく「今」「現代」に合った方法で、無理なく取り組んでいくという姿勢が勉強になった。今回いただいたレシピを参考にし、明日からの朝食を工夫していきたい。

②シンポジウム

県外事例発表

川下中学校区家庭教育支援チーム「チームほっとちゃん」

県内事例発表

げんきアップ！おうえんたい（西条市栄養教員部会）



シンポジウムでは、「優れた『早寝早起き朝ごはん』運動の推進にかかる文部科学大臣表彰」受賞団体による実践事例発表や質疑応答等を行った。川下中学校区家庭教育支援チーム「チームほっとちゃん」（山口県岩国市）とげんきアップ！おうえんたい（西条市栄養教員部会）の先進事例から、児童生徒の主体性を重んじ、家庭を巻き込みながら、多様な体験活動を展開していくことが、生活習慣改善に向けた行動変容のきっかけになることを理解することができた。また、コメンテーターには、講演講師の松丸奨氏、愛媛県医師会理事で愛媛県学童保育連絡協議会長の樋口志保氏、コーディネーターは、料理研究家の中村和憲氏を迎え、事例発表の内容を中心にシンポジストと会場が一体となって、えひめっ子の健やかな成長について話し合った。参加者アンケートの肯定的評価は、100%であった。

参考になったこと・感想・意見

- 「すてきな大人になるために」という視点が、生徒を対象とした学校での取組にとどまらず、地域や家庭を巻き込むのに、とても効果的に感じた。
- 学校だけではなく、地域が協働して家庭教育を推進していくことの大切さを改めて感じた発表だった。
- 味噌汁という、身近でアレンジしやすい料理を通して、児童の食への関心を高めているところが素晴らしいと感じた。

③ワークショップ

ワークショップでは、「今日からできる朝ごはん大作戦！」と題して、朝ごはんをきちんと食べるための手立てやコツについて話し合った。「松丸先生のおススメレシピを使って、簡単で栄養のあるおにぎりを作る」や「食欲が増すように、朝日を浴びて目覚めをよくする」等、様々な意見が出ており、「朝ごはん」に焦点を当てた子どもの生活習慣改善に向けた実践的な取組について、それぞれの思いや考えを共有することができた。参加者アンケートの肯定的評価は、100%であった。



参考になったこと・感想・意見

- 様々な意見やアイデア、意見交換は大変ためになった。異業種の方々とのワークショップは、違う視点を知り得るとてもよい機会となった。
- 職場で管理栄養士は少なく、様々な職種の人の考えを聞く機会がないため、たくさんの「～大作戦」を通しての話合いは、楽しく、とても勉強になった。

(4) 参加者の行動変容（フォーラム2か月後のアンケート調査から）

- 地域の食生活改善推進協議会を対象に「朝ごはんについて」の講話や子育て支援センターに来られる親子を対象に朝ごはんについての調理実習等を実施した。（管理栄養士）
- 学校保健委員会を「どうして朝ごはんは必要か」というテーマで実施した。また、「朝ごはんレベルアップ週間」を設定し、生活チェックを行った。（養護教諭）
- 松丸先生の「おススメ朝食レシピ」を活用している。前日の夜に子どもと一緒に朝食の準備をするようになった。また、食事中の会話も大切にしている。（保護者）
- フォーラムで学んだことを広報誌に掲載し、保護者に対して、「早寝早起き朝ごはん」の大切さを啓発したり、朝食についての調査を実施したりした。（児童クラブ職員）

(5) まとめ・今後に向けて

今年度は、長引くコロナ禍の影響により、ネット利用による睡眠時間の減少や食生活の乱れ等、改めて基本的な生活習慣の育成・改善が求められていると考え、本フォーラムを家庭教育支援研修会と兼ねて実施した。次年度は、「愛顔の子育てトーク&わーく応援プログラム集『トクわく』」の活用とともに、県内家庭教育支援の課題把握に努め、より多くの参加者にとって実りある家庭教育支援事業を計画していきたい。

新・放課後子ども総合プラン指導者研修会

(1) 概要

- 日 時 令和5年12月10日（日）12:30～16:30
- 場 所 にぎたつ会館
- 参加者 83名

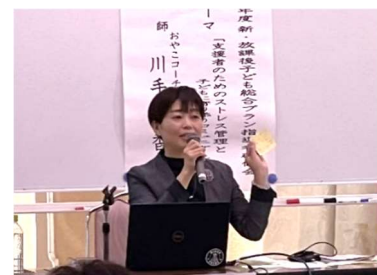
放課後子ども教室関係者（地域コーディネーター及び協働活動支援員等）、放課後児童クラブ職員（放課後児童支援員及び補助員等）、行政担当者 等

(2) 内容

① 講演

演題 「支援者のためのストレス管理と子どもに寄り添うコミュニケーション術」

講師 おやこコーチングmamanoria代表
川手 美香 氏



講師の川手氏に支援者のストレスへの対処法や子どもの困った行動を減らす工夫、保護者と信頼関係を築く方法について具体的な事例をもとに講演いただいた。川手氏は、「子どもの特性、周りの環境、支援者の行動を振り返り見直すことで、子どもの行動を望ましい方向に導くことができる」と話され、支援者が現場で使えるコミュニケーション術に関する在り方を御教示いただいた。参加者アンケートの肯定的評価は、96%であった。

参考になったこと・感想・意見

- 視覚化について他の職員と話し合っ取り入れていきたい。良い行動にのみ目を留める…トライしているが、うまくいかない。でも、続けていきたい。
- 参加者の中に同じようなストレスを抱えている方がいることが分かり、頑張ろうと思った。
- どの放課後児童クラブにも似たような状況の子どもがいるんだなと実感した。支援者はどうしても感情的になってしまうことがある。子どもにもストレスを感じさせず、自分たちもストレスをためないようにして、感情を上手くコントロールできたらいいなと思った。
- 「無反応からの共感」という話が一番心に残った。私自身、トラブルメーカーの子どもに対して、ついつい苦手意識をもっているところがあった。子どもを承認することで信頼関係を築くことができ、お互いにWin-Winの関係になるのだと思った。

②事例発表・グループワーク等

放課後子ども教室

ボンデン広場（新居浜市）

放課後児童クラブ

清水児童クラブ（松山市）



県内の放課後子ども教室と放課後児童クラブの事例をもとに、質疑応答やグループワークを行った。参加者同士が日々の実践や課題について協議を行うことで、今後の指導や運営についての情報を共有することができた。参加者アンケートの肯定的評価は、91%であった。

参考になったこと・感想・意見

- 流しそうめんや電車でGO！など、子どもたちがワクワクする企画がすばらしかった。また、長期休業中に実施するのが良い。
- 小学校と公民館が近く、すばらしい環境だと思った。開館日を考えたり、内容を工夫したりして、参加者を増やすことができているので参考にしたい。
- イベントを企画するためには、労力、準備、スタッフの意思疎通の時間が必要だと思った。
- 放課後子ども教室・放課後児童クラブのそれぞれに良さがあり、支援員さんの日々の努力を伺うことができた。

(3) まとめ・今後に向けて

放課後子ども教室及び放課後児童クラブの指導員等が、一体型・連携型の運営

における具体的な事例やスキルを学ぶとともに、指導者としての資質向上を図ることを目的として研修会を開催した。内容は講義形式だけでなく、グループで参加者同士が情報交換を行い、アンケート結果からも各教室やクラブの今後の活動に参考になる研修会を実施することができたと考える。

令和5年度は「新・放課後子ども総合プラン」の最終年度であることから、子ども家庭庁と文部科学省では、「放課後児童対策パッケージ」として、学校施設の積極的な活用の推進及び地域学校協働活動推進員の追加配置・常駐的な活動等の支援、「校内交流型」としての放課後児童クラブと放課後子ども教室のより一層の連携促進等について、令和5・6年度に予算・運用面から集中的に取り組むこととなった。

今後も引き続き、子どもを健やかに育む体制づくりを進めるために、保健福祉部男女参画・子育て支援課と連携を図り、一体型・連携型の促進に努めていきたい。

1 「愛顔でつなぐ“学校・家庭・地域”の集い」（兼合同研修会）

(1) 目的

県内の幼稚園から高等学校までの保護者・教師・地域住民・福祉関係者・警察関係者・企業等の子どもたちに関わる大人が一堂に会して、研修や情報交換を行い、社会総がかりで子どもたちを育むための方向性を探る。

(2) 概要

- 日時 令和5年8月29日（火）12：30～16：35
- 場所 愛媛県生涯学習センター・えひめ青少年ふれあいセンター
- 参加者 336名

(3) 内容

①講演

テーマ 「学校・家庭・地域の連携・協働～子どもとまちの未来のために～」

講師 特定非営利活動法人まちと学校のみらい 代表理事 竹原 和泉 氏

今年度は、竹原 和泉 氏を迎え、「学校・家庭・地域の連携・協働～子どもとまちの未来のために～」というテーマで講演いただいた。

学校・家庭・地域の連携・協働について、これまで実践されてきた活動の事例とともに連携・協働のポイントや社会に開かれた教育課程の実現に向けた取組について熱く語っていただいた。



参加者は、地域コミュニティの重要性を再確認するとともに、子どもたちの教育に関わる担い手として、それぞれの立場で責任を果たすだけでなく、私たち大人も子どもとともに学び、多彩な人との出会いの喜びを感じながら、地域コミュニティの一員であることを実感できる空間や場の創出について考える機会となったのではないかと考える。参加者アンケートの肯定的評価は、98%であった。

参加者の感想（講演）

- コミュニティ・スクールが始動し、今後の方向性や実践の数々を提供していただいた。熟議のメリットにも納得できた。地域の子どもたちを導く者として、良いものを取り入れたり、新しくしたりする仕組みづくりを進めたい。
- なぜ、学校と地域が連携・協働するのかについて筋道や歴史の流れを踏まえて理解することができた。15歳までの地域活動の分厚い体験が大切であることは、自分自身や子育てを通して深く肯定することができた。
- 単にイベントに参加するだけではなく、自分で考えることの大切さ、いかに地域のことを知るか、子どもだからといって大人がサポートしすぎず、子どもに任せるなど、大変勉強になる点が多かった。
- 子どもを主語に熟議したいと思った。連携が難しく感じることもあるが、それぞれの役割や立場を理解しつつ、前進できるようがんばりたい。

- コロナ禍で、様々な人との関わりやイベントや行事が中止になり、地域の人々との交流も薄れていたが、アフターコロナになり、再び様々な人との関わり、地域の交流等も戻ってきた。これから様々な方々との連携・協働を図り、子どもたちの未来のためにつながろうと思った。
- 子育ての中で、つい口を出してしまうこと、答えを出してしまうことがあるが、それが子どもの学びを奪う可能性があることを知った。今後、子どもたちには考える力や解決する力が必要不可欠になってくるため、子どもの主体性を損なわないようにしたい。

②分科会

分科会は、「地域学校協働活動」「地域による教育機会の充実」「子育て・家庭教育支援」「放課後・土曜日等の子どもの支援」「ICT時代の教育支援」という5つの今日的教育課題に基づいたテーマを設定し、事例発表及び質疑・応答、全体協議、グループ協議等を行った。事例発表をもとに、充実した情報交換ができた。参加者アンケートの肯定的評価は、99%であった。



分科会	テーマ・事例発表
第1分科会	【地域学校協働活動】 幅広い地域住民の参画により、学校と地域が連携して子どもたちを育てる体制づくりをどのように進めるか 〈発表1〉 高津っ子の学びを応援する地域学校協働活動 高津校区地域学校協働本部 地域コーディネーター 秋月 恭子 氏 〈発表2〉 学校と地域をつなぐ 「地域教育プロデューサー」の役割と活用 野村地域自治振興協議会 地域教育プロデューサー 染田 麻弓子 氏
第2分科会	【地域による教育機会の充実】 全ての子どもたちの教育機会の充実を図るために地域の支援体制づくりをどのように進めるか 〈発表1〉 地域貢献とキャリア教育に向けた土曜塾の展開 松山聖陵高等学校 教諭 伊賀上 大三 氏 〈発表2〉 子どものアソビ場 サードプレイスづくりを目指して 八幡浜市立神山地区公民館地域活動交流拠点施設「あすもわ」 館長 木下 恵介 氏
第3分科会	【子育て・家庭教育支援】 保護者と子どもを支え育む子育て・家庭教育支援の体制づくりをどのように進めるか 〈発表1〉 保護者や地域をつなぎ、共に子どもを育むPTA活動 関川小学校PTA PTA会長 眞鍋 聡 氏 〃 前PTA会長 森高 大輔 氏 〈発表2〉 できることから始める子育て・家庭教育支援 石田クリーニング株式会社 代表取締役 清本 有策 氏

第4 分科会	【放課後・土曜日等の子どもの支援】 子どもたちの放課後等の豊かな教育活動をどのように進めるか 〈発表1〉 子どもたちの笑顔が集まる場所～かみじま子ども体験教室の取組～ 上島つながるプロジェクト実行委員会 代表 大西 美穂 氏 〃 事務局 中西 智恵 氏 〈発表2〉 育ちあう場所をめざして～豊かな放課後への支援のありかた～ さくら児童クラブ運営委員会 主任支援員 谷川 玲子 氏
第5 分科会	【ICT時代の教育支援】 子どもたちのICT環境が大きく変化する中で、地域の教育支援をどのように進めるか 〈発表1〉 ICTを活用した子ども支援事業 玉津公民館 地域づくり支援員 一色 良 氏 〈発表2〉 ICTで持続可能、ぎょしょく教育活動のDX 愛南町水産課海業推進室 室長補佐 清水 貴光 氏

参加者の感想（分科会）

- 他の地域から移住し、知り合いのいない所からスタートした発表者。住んでいる地域を好きになり、子どもたちと関わるための熱意が素晴らしい。
- 子育て世代に投資しようと考えている企業があることに嬉しくなった。子どもたちの居場所をつくるためにPTA活動を楽しもうと思う。
- 大きな夢を描き、最終的なビジョンに向けてみんなを巻き込んでいくその行動力と発想力に驚かされた。それも子どもや地域への愛があってこそだと思う。
- 学校だけでは教えることができないプラスアルファの部分で、地域の方々の協力で学ぶことができることはとても意義あることだ。
- 課外活動を中心に活動を行っていたので、ICTを活用した事業を考えていきたい。

参加者からの提言

- やるべきことは多くあるが、自分自身が興味・関心をもって「ひと・こと・もの」に向き合う見本になればと思う。学校は地域・家庭と一緒に、ますますすてきな場所になると確信した。
- 周囲には宝物のような人材がたくさんいるので、自分の中の「あたり前」とらわれず、人と人がつながる機会を増やし、まずは大人がつながることで子どもたちのつながりに結び付けたい。
- これからの未来を担う子どもたちに、地域や学校で様々な体験を重ねながらふるさとを大切にできる人材に育つように支援したい。
- 勤務校においてコミュニティカレンダーを作りたい。講師が紹介して下さった用紙を作成し、まずは来年度に向けての動きをつくっていききたい。

(3) まとめ・今後に向けて

今年度は、定員をコロナ禍前の500名から400名に設定し、参集での開催とした。また、従来の参加申込の方法に加え、L o G o フォームによる申込方法を採用し、広く参加者を募ることができた。

今年度のアンケートや反省を活かし、参加者のニーズ、現代的課題と社会の要請等为先取りし、来年度の講演講師や分科会のテーマを設定したい。また、愛媛の子どもたちの健やかな育ちのために、学校・家庭・地域の連携・協働について、社会全体で考え、学び、深めていくことのできる「集い」にしていきたい。

2 事例集の作成・配布

(1) 内容

県事業及び「地域学校協働活動」「えひめ未来塾」「放課後子ども教室」「土曜教育活動」「家庭教育支援」の取組について、実施市町の優れた実践事例を冊子に取りまとめ、関係者等に提供する。

(2) 配布先

県教育委員、社会教育委員、地域と学校の連携・協働体制構築推進協議会委員、文部科学省総合教育政策局地域学習推進課長、各市町地域ぐるみで育むえひめっ子未来創造事業担当課長、学校教育主管課長、児童クラブ主管課長、各小中学校長、各公民館長、教育関係団体長、各保健所長、子ども・女性支援センター所長、県立社会教育施設長、各教育事務所長、教育委員会事務局関係課長、保健福祉部男女参画・子育て支援課長 等

(3) 配布方法

データの提供及びホームページでの公開

3 CSアドバイザーの派遣

(1) 目的

市町又は県立学校からの要請に応じ、地域学校協働活動又はコミュニティ・スクールについて、知識と情報が豊富であり、実践に携わった実績を有する者（CSアドバイザー）を派遣することにより、県内全ての公立学校におけるコミュニティ・スクールの導入及びその機能の充実を図るとともに、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的な取組の推進を図る。

(2) CSアドバイザー

一般社団法人コミスクえひめ 副代表理事 遠藤 敏朗 氏

(3) 派遣内容

	日 時	会場等	業務内容
1	R 5. 7. 27 (木)	エスポワール 愛媛文教会館	「地域学校協働活動」と「コミュニティ・スクール」の一体的な取組推進研修会における指導助言
2	R 5. 10. 19 (木)	中予地方局	「ともに学ぶコミスク学習会」（中予教育事務所主催）における指導助言等
3	R 5. 11. 22 (水)	オンライン	地域ぐるみで育むえひめっ子未来創造事業第2回説明会における指導助言
4	R 5. 11. 28 (火)	面河住民センター	面河地区地域運営協議会「だんだんおもご」理事会（久万高原町）における指導助言
5	R 6. 2. 8 (木)	オンライン	第2回「ともに学ぶコミスク学習会」（中予教育事務所主催）における指導助言等
6	R 6. 2. 27 (火)	久万町民館	久万高原町学校・家庭・地域連携推進事業推進委員会における指導助言

4 えひめ家庭教育応援学習プログラムのリニューアル

(1) えひめ家庭教育応援学習プログラムとは

話し合いを通して、自身の課題に気付いたり、保護者としての役割やあり方等を考えたり、整理したりすることをねらいとする参加型の学習プログラム

(2) リニューアルの目的

「えひめ家庭教育応援学習プログラム」を社会状況や保護者のニーズの変化等に合わせてリニューアルし、活用の促進を図ることで、子育て家庭を社会全体で支援する体制の構築を目指す。

(3) 新プログラムについて

ア 名称 愛顔の子育てトーク&わーく応援プログラム集「トクわく」

イ リニューアルのポイント

- アンケート調査等からニーズの高い17プログラムを厳選
- 社会状況の変化に応じたエピソードや関連資料の刷新
- 容易に活用できるように一目でわかる展開案を追加

ウ リニューアルの留意点

家庭教育の答えを導くのではなく、地域ぐるみで保護者を応援し、参加者同士が学び合い、つながり合い、支え合うきっかけづくりをねらいとした内容とした。

エ 「トクわく」の構成と内容

- 全体を大きく5つの時期に分けて作成
 - ①【乳幼児期】の子どもをもつ保護者
 - ②【学童期】の子どもをもつ保護者
 - ③【思春期】の子どもをもつ保護者
 - ④【支援期】子育てを支援する幅広い年代の方
 - ⑤【準備期】将来、子育てについて考えたい方
- 主な内容（「」内はプログラム名）
 - ・子育ての心構え 「子育ては楽しいけれど…イライラしたときどうする？」等
 - ・子どもとの接し方「励まし方やほめ方、どうしてる？」等
 - ・子どもの生活習慣「生活のリズムは『早寝・早起き』から」等
 - ・子育て支援 「今どきの子どもたちは…？」等
 - ・メディアとSNS「大丈夫？子どもとSNS」等

(4) プログラムの活用の場面

ア 子育て関連施設における「子育てイベント」「乳幼児健診」等

イ PTA、学校における「PTA研修会」「保護者会」等

ウ 地域、企業における「公民館講座」「企業内研修」等

(5) 今後の展開

子育て支援部局とも連携を図りながら、「トクわく」の周知・活用に向けた取組の充実に取り組む。

5	教育サポート企業活用促進事業
---	----------------

教育サポート企業フェスタ

1 目的

教育支援を実施する企業・団体等の活用を促進し、地域学校協働活動を活性化させるとともに、学校と企業・団体等の連携促進による教職員の負担軽減を図る。

2 テーマ

「えひめ学校・地域教育サポーターを活用し、社会総がかりの教育活動を発展させよう」

3 概要

- 日 時 令和6年1月31日（水）13：00～16：15
- 場 所 愛媛県総合科学博物館
- 参加者 87名

地域ぐるみで育むえひめっ子未来創造事業（土曜教育活動、放課後子ども教室、えひめ未来塾、地域学校協働活動）関係者、児童クラブ関係者、市町教育委員会職員、社会教育関係団体関係者（公民館、愛護班等）、教職員、企業・団体関係者（えひめ学校・地域教育サポーター）等

4 内容

(1) 事業説明及び活動事例の紹介

本事業の教育支援面での趣旨を説明し、令和2年度～令和5年度に報告のあった事例の中から、公民館活動における講習の事例、学校行事・PTA親子活動に関連した事例、授業で活用した事例等を紹介した。

(2) 模擬出前授業及び個別ブースでの説明

県内全域でサポートが可能な登録サポーター2社が全体での模擬出前授業を行った後、13のサポーターが個別ブースで教育支援内容等の説明を行った。

模擬出前授業や個別ブースでの体験等を通じて、参加者による本制度の活用促進が期待される。また、教育支援を行うサポーターにとっても、他社の支援内容やスキルを学ぶ貴重な機会となった。

5 アンケート結果について

アンケート（回答数51、回収率58%）の結果、本フェスタの満足度（「大いに参考になった」「参考になった」）は98%で、えひめ学校・地域教育サポーターを今後活用したいと回答した方は92%であった。

6 まとめ・今後に向けて

東・中・南予の各地区で実施した本フェスタは今年度で終了するが、今後もえひ

め学校・地域教育サポーターの更なる活用促進を図り、引き続き教育関係者と企業等関係者の連携による社会総がかりで取り組む教育活動の促進と充実に努める。



模擬出前授業の様子①



模擬出前授業の様子②



個別ブースの様子①



個別ブースの様子②

令和5年度教育サポート企業フェスタ参加団体一覧表

模擬出前授業実施サポーター	
愛媛トヨタ自動車株式会社	江南ラミネート株式会社
個別ブース対応サポーター	
一広株式会社	株式会社伊予銀行
一般社団法人WONDER EDUCATION	四国電力株式会社愛媛支店
SMBCコンシューマーファイナンス株式会社	金融リテラシー向上コンソーシアム
公益社団法人 愛媛県看護協会	愛媛県総合科学博物館
愛媛県歴史文化博物館	社会福祉法人愛媛県社会福祉協議会
日本赤十字社愛媛県支部	愛媛県動物愛護センター
河原医療大学校 新居浜校	

